鎌倉の温古堂
仏壇・仏具・御宮
神具・香・香炉
創業弘化四年
フーフでナムナム
☎〇四六七（22）七六七六

5月1日号
2019年（令和元年）
第482号
毎月1日発行
（一部税込108円）
朝日新聞の姉妹紙
http://kamakura-asahi.com

鎌倉朝日

© 発行所 鎌倉朝日新聞社☎0467-24-8553 FAX23-1205
〒248-0007 鎌倉市大町２丁目８番１３号 2-202

お宮参り・七五三の会食は
鎌倉峰木
八幡宮前・小町通り・十二所神社前
本店 電話 0467-22-4431

鎌倉文華館の船出
6月の開館前に建築公開
5月6日まで

鎌倉市雪ノ下の旧神奈川県立近代美術館 鎌倉が「鎌倉文華館 鶴岡ミュージアム」として生まれ変わり、6月8日の開館を前に、4月20日から「新しい時代のはじまり」の題で建築公開されている。

建築家・坂倉準三に設計された歴史的建築の意匠を保ちつつ、最新の技術によって補強、復原などした改修工事の過程を、図面や模型、写真、映像などで紹介している。

県立近代美術館は、日本で最初の公立近代美術館として1951年に建設されたが、2016年3月、県と鶴岡八幡宮との間の借地契約満了に伴い、65年間の幕を閉じて閉館した。当初は更地返還されることになっていたが、同八幡宮は建物を残し、新たな文化施設として活用していくことを決め、2年間の改修工事を行った。

一般公開に先立って4月16日の内覧会に美術館、神社、行政などの関係者約100人が訪れ、鶴岡八幡宮の吉田茂穂宮司が「65年の伝統の重み、関わった方々の熱情あふれる思いを酌んでいきたい」と挨拶。

県立近代美術館の水沢勉館長は「『解纜』―ともづなをといて船出していく、その言葉が今日だ」と祝辞を述べた。

建築公開は5月6日まで。中学生以上500円。同ミュージアム☎0467・55・9030

平家池を回遊する小径から同ミュージアムを望む

展示室の内覧風景＝4月16日

鎌倉 みほとけ紀行 (92)
円応寺・奪衣婆坐像

題字は建長寺派管長 吉田 正道
文 永井宗直
写真 原田 寛

人の欲は計り知れない。自分だけは違うなどと心の中で思っていても嘘はつけないのだ。

そう、今月の御仏は建長寺門前の円応寺、通称、えんま寺の奪衣婆坐像であります。こちらをギロッと睨む鬼婆は、冥界の三途の川の向こうで待ち構えています。そして容赦なく亡者の衣をはぎ取り、はぎ取られた衣は衣領樹という木にかけられ、その枝の垂れ下がり具合で、死者の生前の悪業が測定され、三途の川のどこを渡るのか決まるそうです。やはり他人にはわからないだろうなどと心に思っても、欲望はごまかせないのですね。

そんな恐い存在の奪衣婆ですが、円応寺の像は少し違います。怖さの中にも品格があるのです。通常、奪衣婆といえば、胸元もはだけ、痩せて骨の浮いた姿ですがこちらは、きちんと衣をまとっておられる姿がとても印象的で、仏師弘円作と伝えられる鎌倉地方彫刻の優れた作品といわれています。

さて、奪衣婆によって悪業が知れ渡ってしまった者は次にいよいよ閻魔大王の裁きを受けます。亡者の次の行き先が宣告されるのです。次の行き先とは、生まれ変わるべき（心の）世界。つまり六道といわれ、地獄、餓鬼、畜生、阿修羅、人、天の六つの世界であります。

このように古来より伝わるお話はなにか新鮮に思えました。こんなのはフィクションでしょう、などと見放される昨今かもしれませんが、「自己を善しとし、他を悪しとする」今日の思い上がった考え方、我執にとらわれた者に奪衣婆は薄暗い閻魔堂から今も睨みをきかせておられるのです。

木造・彩色・玉眼。像高92・0㎝、室町時代。県重文。

《熊本城修復支援》
妙法寺 特別開帳

熊本地震の復興支援の一環で、鎌倉市大町の妙法寺の特別開帳が5月19日午前10時から午後3時まで行われる。

「熊本復旧支援鎌倉有志の会（世話人大貫昭彦さん）」が、同寺にある肥後熊本藩主・細川斉茲が寄進した総欅造りの本堂にある、斉茲が4歳で急逝した愛娘寄姫を追悼して制作させた100面の天井画や障壁画などを公開して、熊本の復興に役立ててもらおうと、昨年10月に行った催しの2回目。

天井に100枚の花の絵

午前10時半と午後1時半は、住職の読経と世話人による絵画などの解説がある。特別開帳料千円、入山料3百円。

問い合わせ大貫さん☎0467・61・2747

勇壮な流鏑馬

鎌倉まつりの最終日を飾る「流鏑馬」が4月21日、鶴岡八幡宮で行われた＝写真は松原省吾撮影。大日本弓馬会武田流一門の奉納で、射手が約250mの馬場を疾走する馬の上から矢を構え、的を次々と射ぎ、命中すると観客から拍手と大きな歓声が上がった。

鎌倉の年中行事 5月

▼**菖蒲祭** 5日13時、鶴岡八幡宮。無病息災など祈願。舞楽の奉納。

▼**草鹿神事** 5日13時、鎌倉宮。烏帽子、直垂姿の射手が古式に則り鹿をかたどった的を射る。

▼**秋葉山大例祭** 5日11時、材木座の光明寺。

▼**徳崇権現祭** 22日13時、小町の宝戒寺。北条一族の慰霊供養。

▼**白旗神社例祭** 28日10時、鶴岡八幡宮境内の白旗神社。

▼**茶筅供養** 28日10時半、建長寺茶筅塚。

プロムナード

「令和」の典拠が『万葉集』の第五巻、梅花の歌32首の序文となっており、日本古典からの採用は初めてということで話題を集めています▼鎌倉にちなんだ歌も4首採録されている万葉集は天皇から詠み人知らずの庶民までの作品4516首を20巻にまとめられたものです▼「4516首のうちの4首なら、鎌倉は所縁が薄い」と思われますが、実は鎌倉時代に仙覚という「万葉研究の礎を築いた人物」が妙本寺にて万葉研究をしたことで知られています▼万葉集は、鎌倉時代の仙覚と江戸時代の本居宣長がバトンをつないで、今に息づいています▼「武家の古都・鎌倉」には、このような文化的な側面もあることを誇らしく思います。（N）

鎌倉石屋
梅花はんぺん
井上蒲鉾店
http://www.inouekamaboko.co.jp/

好評販売中
鎌倉産たこ使用

株式会社 大森商店
o.m.s.souvenir.works
☎0467-22-2626
http://www.e-omori.com/

日刊スポーツから皆さまへお願い
読者モニターとして紙面づくりに
ご協力いただける方を探しています
6月1カ月間無料で日刊スポーツをお届けします。
アンケートにお答えください

★お申込みはこちらから
▼スマホ・タブレットからお申込み
モニターになられた方に1カ月間日刊スポーツを無料でご覧いただきます
後日お送りする回答用URLにアクセスいただき質問にお答えください
アンケートにお答えいただいた方には、粗品を進呈いたします。
※アンケート・粗品は配達を担当するASA（朝日新聞販売所）が応対します
締め切り:5/20

リフォームフェア
5月10日～6月29日
快適な夏をお過ごしいただける支援をします

seiko
清興建設株式会社
問合せ先 代表 0467-24-3700
担当：清水 9:00～17:00 受付（水・日・祝日は、定休日です）